

日中初対面接触場面の二国会話と三国会話における非母語話者の理解・参加の比較

—話題開始の発話の分析をもとに—

中井陽子(東京外国語大学) 佐藤茉奈花(東京外国語大学修了生) 夏雨佳(東京外国語大学大学院生)

1. はじめに

グローバル化が進み、日本語の母語話者と非母語話者が出会い、相互理解のために初対面の会話を行う機会が増えている。その際、二国会話と三国会話では話題開始の仕方や話題展開等が異なるため、会話への参加の仕方も異なってくると考えられる(大場, 2012)。しかし、初対面会話の研究では、母語話者同士の母語場面、母語話者と非母語話者の接触場面の二国会話のものが多く(三牧, 1999; 中井, 2002 等)、二国会話と三国会話を比較する研究は少ない。

そこで本研究では、初対面接触場面の二国会話と三国会話における話題開始の発話に焦点を当て、その話題展開の仕方と非母語話者が会話を理解して参加できているかという点との関係について比較分析を行う。

2. 先行研究

三牧(1999)では、異学年の男女同性同士の初対面母語場面における二国会話での「情報要求」と「情報提供」の発話機能を分析し、学年の上位者が話題管理を行う点は男女共通だが、男性は自己に関して多く話し、女性は学年の上位者が下位者に多く話す機会を与えるという傾向を指摘している。また、大場(2012)は、女性同士の知人関係にある三国会話における、話題開始の発話機能を「情報要求」と「情報提供」、話題に対する情報量によって担う役割を「話題保持者」と「話題非保持者」に分類し、母語場面と接触場面(中級前半, 中級後半)で比較分析を行っている。その結果、母語場面では、話題保持者が情報提供や情報要求で話題を開始していたという。一方、中級前半の学習者が参加する接触場面では母語話者が学習者に対して情報要求で話題開始しているのに対し、中級後半の学習者が参加する接触場面では学習者が話題保持者として自ら情報提供する割合が高く、中級前半より話題開始に積極的に関わっていることを明らかにしている。

3. 研究方法

会話参加者は、母語話者 J1, J2, 中国人日本語学習者 C1 で、全員が初対面であった(表 1)。会話データは、二国会話①(J1, C1), 二国会話②(J2, C1), 三国会話③(J1, J2, C1)の各 10 分間の雑談を 3 本録画収集した。会話の相手と参加者数の違いによる C1 の会話の参加・理解への影響を比較するため、会話①②③全てに C1 が参加するようにした。会話後、各参加者にフォローアップインタビュー(FUI)を行い、C1 には中国語と日本語で会話への理解も確認した。会話データは全て文字化し、話題展開を見るために、会話①②③の話題区分(大話題, 中話題, 小話題)と話題タイトルの認定を筆者ら 3 人で協議の上行った。なお、本研究における話題とは、「会話の中で導入、展開された内容的に結束性を有する事柄の集合体を認定し、その発話の集合体に共通した概念」(三牧, 1999:375)とする。また、話題開始の発話は三牧(1999)、大場(2012)を参考に、発話機能、話題開始者、話題保持者の分類を行った。発話機能はザトラウスキー(1993)、堀口(1997)を参考に、実質的内容を伝える「情報提供」、情報の提供を求める「情報要求」、自身の聞き取り・理解の確認を要求する「確認要求」、挨拶等の良い人間関係を作る「関係作り」の 4 つに分類した。さらに、大場(2012)では、話題保持者を参加者の話題に関する情報量が相対的に多い者を一人認定しているが、本研究では複数の会話参加者が共同で話題保持者となる場合も分類した。

表 1 会話参加者

参加者	性別・年齢・身分・留学経験
J1	女性・日本語母語話者 20代前半(学部3年) 留学経験:1年(ポーランド)
J2	男性・日本語母語話者 20代前半(学部4年) 留学経験:なし
C1	男性・中国人日本語上級学習者 20代後半(研究生) 留学経験:1年半(日本)

4. 会話データの分析

まず、表 2 の会話①②③における話題開始の発話の発話機能、話題開始者、話題保持者の数の集計結果をもとに分析を行う。会話①②③に共通して、大話題での関係作りは全て J1, J2 が行っていた。二国会話①②の大話題では、J1 と J2 が話題開始者となり C1 に情報要求して開始する割合が最も高かった(J1:50%, J2:33.3%)。また、C1 が話題保持者となる

大話題は J1/C1 または、J2/C1 が共同で話題保持者になる場合も含めると、会話①では 75% (50%+25%)、会話②では 88.8% (33.3%+11.1%+11.1%+11.1%+22.2%) であった。このように二者会話①②における大話題では J1, J2 が話題開始者となり、C1 が話題保持者となる話題を選択する傾向があった。だが、中・小話題は会話①と②で違いがあった。会話①では J1 が C1 に話題を引き出すための情報要求をして中・小話題が開始されていた(中話題:34.2%(31.6%+2.6%), 小話題:15.0%)。また、小話題では C1 の情報提供が最も多いことから(40%), C1 が会話を理解して積極的に話題展開しながら参加していたと言える。一方、会話②では J2 の情報要求で中・小話題が開始されることは少なく(中話題:8.6%, 小話題:3.7%), J2 が自ら情報提供して開始していた(中話題:22.9%, 小話題:48.1%)。さらに、確認要求での話題開始は、J1(大話題 0%, 中話題 5.2%, 小話題 5.0%)と J2(大話題 22.2%, 中話題 14.3%, 小話題 11.1%)には見られたが、C1 には全く見られなかった。ここから、C1 にとって初対面会話では相手の情報をもとに確認要求しつつ話題開始するのが難しいと言える。

三者会話③の大話題では、全 9 個とも J1 と J2 が開始し(44.4%, 55.5%)、中話題では母語話者からの情報提供で話題が開始されることが多かった(J1:32.4%, J2:27.0%, C1:8.1%)。さらに、大話題の話題保持者は二者会話①②とは異なり、三者にある程度分散されており(J1:66.6%, J2:55.5%, C1:66.6%)、共同で話題保持者となる話題も見られた(44.4%)。なお、上記の三者会話③の話題開始者の数値は、表 2 において J1 は太字、J2 はあみかけ、C1 は囲みの合計となる。また、話題保持者の数値は、表 2 の話題保持者の列から該当の参加者の各数値を合計したものである。なお、発話機能「不明」とは、言いさし発話により発話機能を分類することができなかったものである。

表 2 会話①②③における話題開始の発話の発話機能、話題開始者、話題保持者の集計結果

発話機能	話題開始者	話題保持者	会話①			会話②			会話③		
			大	中	小	大	中	小	大	中	小
情報要求	J1	C1	4(50.0%)	12(31.6%)	6(15.0%)	-	-	-	1(11.1%)	1(2.7%)	2(8.0%)
		J2	-	-	-	-	-	-	1(11.1%)	2(5.4%)	-
		J1/C1	-	1(2.6%)	-	-	-	-	-	-	-
		J1/J2/C1	-	-	-	-	-	-	1(11.1%)	1(2.7%)	-
	J2	C1	-	-	-	3(33.3%)	3(8.6%)	1(3.7%)	1(11.1%)	1(2.7%)	1(4.0%)
		J1	-	-	-	-	-	-	1(11.1%)	2(5.4%)	-
		J1/J2/C1	-	-	-	-	-	-	1(11.1%)	1(2.7%)	-
	C1	J1	2(25.0%)	3(7.9%)	1(2.5%)	-	-	-	-	-	-
J2		-	-	-	1(11.1%)	2(5.7%)	-	-	1(2.7%)	-	
情報提供	J1	J1	-	6(15.8%)	14(35.0%)	-	-	-	1(11.1%)	9(24.3%)	6(24.0%)
		J1/C1	-	1(2.6%)	-	-	-	-	-	2(5.4%)	-
		J1/J2/C1	-	-	-	-	-	-	-	1(2.7%)	-
	J2	J2	-	-	-	-	7(20.0%)	13(48.1%)	-	8(21.6%)	7(28.0%)
		J2/C1	-	-	-	-	1(2.9%)	-	-	1(2.7%)	-
		J1/J2/C1	-	-	-	-	-	-	-	1(2.7%)	-
	C1	C1	-	10(26.3%)	16(40.0%)	-	8(22.9%)	10(37.0%)	-	2(5.4%)	6(24.0%)
		J1/C1	-	-	1(2.5%)	-	-	-	-	1(2.7%)	-
J2/C1		-	-	-	1(11.1%)	1(2.9%)	-	-	-	-	
確認要求	J1	C1	-	1(2.6%)	1(2.5%)	-	-	-	-	-	-
		J1	-	-	1(2.5%)	-	-	-	-	-	1(4.0%)
		J1/C1	-	1(2.6%)	-	-	-	-	-	-	-
	J2	C1	-	-	-	1(11.1%)	2(5.7%)	3(11.1%)	-	-	-
		J2	-	-	-	-	2(5.7%)	-	-	-	-
		J2/C1	-	-	-	1(11.1%)	1(2.9%)	-	-	-	-
関係作り	J1	J1/C1	2(25.0%)	2(5.3%)	-	-	-	-	-	-	
		J1/J2/C1	-	-	-	-	-	-	-	1(2.7%)	1(4.0%)
	J2	J2/C1	-	-	-	2(22.2%)	3(8.6%)	-	-	-	-
		J1/J2/C1	-	-	-	-	-	-	2(22.2%)	1(2.7%)	-
	C1	J1/C1	-	1(2.6%)	-	-	-	-	-	-	-
		J2/C1	-	-	-	-	3(8.6%)	-	-	-	-
不明	J2	C1	-	-	-	-	2(5.7%)	-	-	-	-
			-	-	-	-	-	-	-	-	-
計			8(100%)	38(100%)	40(100%)	9(100%)	35(100%)	27(100%)	9(100%)	37(100%)	25(100%)

次に、表 2 の集計結果の特徴がよく表れている各会話の大話題を一つずつ取り上げ、会話例とともに詳細に分析を行う。

二者会話①は、母語話者 J1 からの情報要求によって会話が開始され、C1 が情報提供をすることによって C1 が話題保持者となるような話題展開の仕方が、大話題、中話題、小話題それぞれに多く見られた。表 3 は、こうした特徴がよく表れている大話題 3 「日本の研究生活」の中話題、小話題の話題展開をまとめたものである。

表 3 二者会話① 大話題 3 「日本の研究生活」(発話 No. 63-104) 話題開始者: J1 【情報要求】 話題保持者: C1

3-1. 大学の勉強は楽しいか(発話 No. 63)	話題開始者: J1 【情報要求】 話題保持者: C1
3-2. 研究がつまらない (発話 No. 64-79)	話題開始者: C1 【情報提供】 話題保持者: C1
3-3. 書道の資料(発話 No. 80-104) 話題開始者: J1 【情報要求】 話題保持者: C1	3-3-1. 書道の資料はどんなものがあるか(発話 No. 80-81) 話題開始者: J1 【情報要求】 話題保持者: C1
	3-3-2. 研究対象の時代 (発話 No. 82-89) 話題開始者: C1 【情報提供】 話題保持者: C1
	3-3-3. 資料の集め方 (発話 No. 90-98) 話題開始者: C1 【情報提供】 話題保持者: C1
	3-3-4. 研究の進捗 (発話 No. 99-104) 話題開始者: C1 【情報提供】 話題保持者: C1

会話例(1)は、二者会話①の大話題3の中にある中話題3-3の断片である。J1が80で情報要求をして中話題を開始し、C1はその応答として82, 90, 99で情報提供し小話題3-3-2, 3-3-3, 3-3-4を展開している。また、FUIでJ1は母語話者として会話をリードしなければならないと思われ、C1が答えやすい話題を選択していたと述べていた。このように、C1が話題保持者となって情報提供しやすくなるようにJ1が調整していたと言える。その結果、C1は会話内容のほとんど(98%)が理解でき、さらにJ1が自分の話を聞いているという態度を見せてくれたので話しやすかったと述べていた。

会話例(1) 二者会話① 大話題3「日本の研究生活」、中話題3-3

3-3	3-3-1	80	J1	書道に関する資料ってどんなものがあるんです//か?	情報要求
		81	C1	はい。	
	3-3-2	82	C1	書道に関する資料はあの書籍、とゆよあの一過去の作品//過去の、	情報提供
		83	J1	あー作品 (以下中略)	
	3-3-3	90	C1	その時代に、関する作品はー今、あー、は、はふ、は、はっぶつ、博物館にー、	情報提供
		91	J1	うん	
		92	C1	行かなければならぬ。(以下中略)	
	3-3-4	99	C1	あの資料を集めてー、それからー、あー、研究の内容をーあの、セコ研究とか、あのーか、書いています。	情報提供
		100	J1・C1	{笑い}	
		101	J1	そっかそっか、大変ですねー。	

二者会話②は、二者会話①と同様、母語話者J2からの情報要求で大話題が開始され、C1の情報提供によりC1が情報保持者となっていた。しかし、中・小話題では、会話①とは異なり、J2がC1の情報提供に関連付けて自身の経験等を情報提供して話題開始していくという話題展開の仕方が多く見られた。表4は、こうした特徴がよく表れている大話題4「日本に興味を持ったきっかけ」の中話題、小話題の話題展開をまとめたものである。

表4 二者会話② 大話題4「日本に興味を持ったきっかけ」(発話No. 79-139) 話題開始者:J2【情報要求】 話題保持者:C1

4-1. 日本になぜ興味を持ったか(発話No. 79-83)	話題開始者:J2【情報要求】	話題保持者:C1
4-2. 書道専攻(発話No. 84-90)	話題開始者:C1【情報提供】	話題保持者:C1
4-3. 書道経験(発話No. 91-93)	話題開始者:J2【情報提供】	話題保持者:J2
4-4. 字が綺麗な人への評価(発話No. 94-105)	4-4-1. 字が汚い(発話No. 94-95)	話題開始者:J2【情報提供】 話題保持者:J2
	4-4-2. 字が綺麗な人は得(発話No. 96-103)	話題開始者:J2【情報提供】 話題保持者:J2
	4-4-3. 字が上手い人はかっこいい(発話No. 104-105)	話題開始者:J2【情報提供】 話題保持者:J2
4-5. 書道専攻(発話No. 106)	話題開始者:J2【不明(言いきさし)】	話題保持者:C1
4-6. 中国での字が綺麗な人への評価(発話No. 107-109)	話題開始者:C1【情報提供】	話題保持者:C1
4-7. 書道の研究内容(発話No. 110-132)	話題開始者:C1【情報提供】	話題保持者:C1 (※小話題省略)
4-8. 研究は面白いがづらい(発話No. 133-139)	話題開始者:J2【情報要求】	話題保持者:C1

会話例(2)は二者会話②の大話題4の中にある中話題4-3, 4-4の断片である。会話例(2)の直前の中話題4-2でC1の専攻が書道であると判明したため、91でJ2は情報提供をして中話題4-3を開始し、自らの書道経験を語っている。続く94でもJ2の情報提供により中話題4-4が開始され、字が綺麗な人への評価を述べている。このように、J2はC1の話題と関連付けて自ら情報提供して話題展開をしていた。FUIでJ2は、親近感を持ってもらうために自分との接点を話したり、自分が相手に感じた好ましい感想の根拠として自分のことを引き合いに出したりしたと述べていた。また、C1はJ2がたくさん話してくれたためリラックスして話し、会話内容もほとんど(95%)理解できたと述べていた。

会話例(2) 二者会話② 大話題4「日本に興味を持ったきっかけ」、中話題4-3~4-4

4-3	-	91	J2	書道は、なんかー多分最後、僕、書道、書いたの一本当小学校の、なんかもう書き初めてて分かりますか?	情報提供
		92	C1	分かります。	
		93	J2	あ、ご存知?やっぱあれでこう書いてたっていうー冬休みだか春休みだかちょっと忘れちゃった、でこう学校にーもうあれぐらいしか経験がないもんでね	
4-4	4-4-1	94	J2	であと、僕自身、すごく字が汚いんですね	情報提供
		95	C1	{笑い}	
	4-4-2	96	J2	字が汚くてーその字が綺麗な人ってすごい得だなんて思ってたー。	情報提供
		97	C1	へーなるほど。(以下中略)	
	4-4-3	104	J2	すごいね、僕、字とか書..がね、上手い人はかっこいいなと思いますけどね	情報提供
		105	C1	{笑い} そうかもしない。	

三者会話③の大話題は全て母語話者J1, J2から開始されていたが、大話題の話題保持者は三者にある程度均等に分散されていた。また、母語話者の情報提供で話題が開始されることも多く、C1の参加や理解が低い話題もあった。表5は、特にそれが顕著である大話題8「就活へのコロナの影響」における中話題、小話題の話題展開をまとめたものである。

表5 三者会話③ 大話題8「就活へのコロナの影響」(発話No. 380-493) 話題開始者:J2【情報要求】 話題保持者:J1

8-1. コロナの影響はどうか(発話No. 380-385)	話題開始者:J2【情報要求】	話題保持者:J1
8-2. 合同説明会ができない(発話No. 386-392)	話題開始者:J1【情報提供】	話題保持者:J1
8-3. 現在のオンライン説明会(発話No. 393-401)	話題開始者:J1【情報提供】	話題保持者:J1
8-4. 企業の対応の変化(発話No. 402-450)	8-4-1. 企業の対応の変化が見込まれている(発話No. 402-408)	話題開始者:J1【情報提供】 話題保持者:J1
	8-4-2. 面接のやり方(発話No. 409-450)	話題開始者:J1【情報提供】 話題保持者:J1
8-5. ウェブになるのに賛成(発話No. 451-486)	8-5-1. 説明会や面接がウェブになる(発話No. 451-456)	話題開始者:J2【情報提供】 話題保持者:J2
	8-5-2. 去年の就活の無駄(発話No. 457-479)	話題開始者:J2【情報提供】 話題保持者:J2
	8-5-3. ウェブ就活もいい(発話No. 480-486)	話題開始者:J2【情報提供】 話題保持者:J2
8-6. まとめ:就活へのコロナの影響(発話No. 487-493)	話題開始者:J2【情報提供】	話題保持者:J2

会話例(3)は三者会話③の大話題8の中にある中話題8-1～8-5の断片である。大話題7の中話題7-3「就活」、7-4「説明会」でJ1が「就活(就職活動)」の話をしており、それについてJ2が380で情報要求をして大話題8「就活へのコロナの影響」を開始している。J1はそれに応じて386, 393, 402, 409で情報提供を行うことで中・小話題を開始し、また451ではJ2が情報提供することで自身の考えを述べ、中・小話題を開始している。このように、会話例(3)ではJ1とJ2のみが情報要求、情報提供を行い、C1の発話は「うんー」「そうです」等のあいづちのみであった。これに関してC1はFUIで、日本人同士の速い発話で理解できない部分が多かったと述べていた。また就活という言葉が分からなかったと語っており、日本語の理解と日本の就職活動という社会文化的知識の不足から会話への参加が困難であったと言える。二者会話に比べ、話題開始の点では負担が分散されるが、話題を理解して参加するのはC1にとって困難であったと言える。また、FUIでJ1, J2ともにC1が理解して参加していると思っており、特に理解の確認をしなかったと述べていた。ここから、C1の理解に対する母語話者側の意識が二者会話より低かったと言える。さらにJ1は中話題7-3「就活」で自身の就活の話題を開始して、C1に日本で働く予定か情報要求するつもりだったという。だが、J2が380で就活の話題を広げてしまったという。二者会話とは異なり、話題展開が思うようにできず、C1にとって理解が困難な話題になり得ると言える。

会話例(3)三者会話③ 大話題8「就活へのコロナの影響」、中話題8-1～8-5

8-1	—	380	J2	就活どうよ、このコロナー、//がどうこう言われてる中	情報要求
		381	J1	あーでも、	
		382	C1	うんー。	
8-2	—	386	J1	普段ならー、その合同説明会//って行って、	情報提供
		387	C1	うんうんそうです。	
8-3	—	393	J1	人が集まれないのでー、	情報提供
		394	J2	うんー。	
		395	J1	もう全部ウェブ、そのパソコンでー//説明会っていうのに、	
		396	J2	あーやいりぬえ。	
		397	C1	そう//です。	
8-4	8-4-1	402	J1	ま、なによりー、その企業ーがー、	情報提供
		403	J2	うん。	
		404	J1	例年とは違った対応をしてくるっていうのが、こうちょっと見込まれていてー。	
	8-4-2	409	J1	なんか例えばー、	情報提供
		410	C1	うん。	
		411	J1	あー、面接	
8-5	8-5-1	451	J2	やーでもその説明会とかがー、んー面接もだけー、	情報提供

5. 考察と結論

以上の分析から、二者会話①②ではJ1とJ2の話題展開の仕方に三牧(1999)の男女の違いが現れていた。女性J1はC1に情報要求して話す機会を多く与えていたが、男性J2はC1から提供された情報に関連付けて自身の情報を提供していた。このようにJ1とJ2の話題展開の仕方は異なるが、C1の参加や理解に大差はなかった。また、三者会話③の大話題は、J1, J2が話題開始をしていた点は、大場(2012)の知人関係の接触場面(中級前半)で母語話者が非母語話者に対して情報要求をして話題開始するという結果と重なる。C1は上級学習者だが、初対面であったことが影響していると言える。C1の理解や参加については、二者会話①②では母語話者側の配慮(C1が参加しやすい話題選択、C1への情報要求、自身に関する情報提供)により、C1の理解や参加は高かった。だが、三者会話③ではその意識が薄れ、C1の理解や参加が低くなってしまいう話題もあった。ここから、初対面接触場面では非母語話者が理解して参加できるように二者会話だけでなく、三者会話でも話題展開の際に母語話者側がより配慮する必要がある。例えば、話題選択の仕方や誰が話題保持者になるか等への配慮である。特に母語話者同士のみ共有する話題を選択した場合、非母語話者の理解を確認し、質問を投げかける等して参加を図ることも重要であろう。これにより初対面会話での母語話者と非母語話者による相互理解がより促進されよう。

謝辞 本研究は、JSPS 科研費 19K00702 の成果の一部である。本研究にご協力くださった皆様にお礼申し上げます。

参考文献

- 堀口純子 (1997). 日本語教育と会話分析 くろしお出版
- 三牧陽子 (1999). 初対面インターアクションにみる情報交換の対称性と非対称性 吉田彌壽夫先生古稀記念論集編集委員会(編) 日本語の地平線: 吉田彌壽夫先生古稀記念論集 くろしお出版 pp. 363-376.
- 中井陽子 (2002). 初対面母語話者/非母語話者による日本語会話の話題開始部で用いられる疑問表現と会話の参加・理解の関係 群馬大学留学生センター論集, 2, 23-38.
- 大場美和子 (2012). 接触場面における三者会話の研究 ひつじ書房
- ザトラウスキー, ポリー (1993). 日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察 くろしお出版